

I. はじめに

保健福祉センター（センター：健康サポート室、学生相談室）では、心や人間関係の相談、体に関する相談や応急処置、学生の健康診断の管理、健康教育（たより）、集団生活や実習等に関わる感染症予防対策、イベントなどへの対応、教職員の健康管理などを行うこととしているので、それぞれの項目について2016年度の活動を振り返り、次年度に向けた課題について整理する。

表 1. 2016年度の相談対応延べ数

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
1	内科系 発熱、気分が悪い、 生理痛など	学生：男	4	0	3	4	1	0	0	6	4	0	1	0	23
		学生：女	20	14	21	8	3	6	28	24	12	15	9	0	160
		教職員：男	1	2	1	0	0	0	8	1	1	3	3	2	22
		教職員：女	1	0	2	1	4	1	2	2	2	1	1	0	17
2	外科系 ケガ、火傷、虫刺さ れなど	学生：男	2	0	1	3	0	1	3	10	0	0	0	0	20
		学生：女	9	21	32	29	7	7	8	0	10	9	2	0	134
		教職員：男	1	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	6
3	心の相談、生活相談、 友人関係、進路のこ となどの相談	学生：男	1	1	4	2	1	15	3	26	19	12	8	11	103
		学生：女	61	73	83	51	11	19	64	54	45	50	36	21	568
		教職員：男	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	4
4	医療相談 病院に行ったほうが いいか、受診後の報 告など	学生：男	1	0	1	0	1	0	7	0	0	0	2	1	13
		学生：女	11	14	17	14	7	10	14	6	7	4	7	1	112
		教職員：男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
5	体重管理（定期測定）	教職員：女	0	0	1	3	1	2	0	0	0	0	1	0	8
		学生：男	4	0	1	5	1	1	6	2	1	0	1	0	22
		学生：女	30	36	79	80	25	11	78	47	31	16	11	7	451
6	婦人科系	教職員：男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		教職員：女	0	0	1	3	1	2	0	0	0	0	1	0	8
7	禁煙支援・飲酒指導	学生：女	2	3	1	4	2	1	3	2	2	0	0	1	21
		教職員：女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		学生：男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		学生：女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	健診・書類関係	教職員：男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		教職員：女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		学生：男	3	11	12	12	3	6	10	11	4	7	5	6	90
		学生：女	87	57	87	70	24	63	73	93	46	45	38	20	703
9	その他	教職員：男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		教職員：女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		学生：男	22	1	22	6	5	4	8	15	4	4	6	3	100
		学生：女	182	66	93	63	33	32	114	79	52	22	48	21	805
10	呼び出し	教職員：男	9	1	1	1	2	2	0	5	5	0	5	4	35
		教職員：女	17	21	15	17	12	11	10	6	4	11	5	4	133
		学生：男	1	1	1	4	0	0	0	0	0	0	0	1	8
学生合計	学生：女	8	1	16	33	1	0	0	0	0	0	12	0	71	
	学生合計	448	299	475	388	125	176	419	375	237	184	186	93	3405	
教職員合計		31	34	27	33	21	21	24	17	20	18	21	10	277	
全合計		479	333	502	421	146	197	443	392	257	202	207	103	3682	
再掲： 医療機関へ紹介	学生：男	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	
	学生：女	7	4	10	3	0	0	4	3	2	3	3	0	39	
	教職員：男	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
	教職員：女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

注）相談経路は直接面接したもののほか、電話、電子メールによるものも含む。

平日月～金曜日に健康サポート室、学生相談室を開き、9：00～17：00は看護師常駐（学生長期休暇中は9：30～16：20）で、相談員は今年度から常勤正職員となり、18：00まで相談を受けた。2016年度は各種の相談を含め、延べ3682人の来室があった。昨年度の2858人より増加し、2014年度の3264人を超えてこれまで最多数となった。

Ⅱ. 心や人間関係の相談

●看護師、相談員が受けたのべ相談件数は表1に示すとおり703人で、相談員が対応したのは578人で、2015年度より増加した。

相談内容は実習などでのつまづき、進路友人関係などの相談があった。欠席が目立つ学生や、運営会議で気になるという報告があった学生には、呼び出して面接するなど積極的に働きかけた。そのような学生は、

何らかの発達の偏りがあると思われることが多いが、常勤の相談員が配置されたことで、より詳細な発達の偏りを把握できるようになった。そのことから、学科教員との学生支援会議も頻回に開催できるようになり、いわゆる「障害学生支援」におけるセンターの役割も増してきている（のべ回数：9回）。障害学生支援会議の内容としては、身体疾患による長期欠席の学生に対する履修や実習先等の検討・調整を目的としたもの、障害者手帳の所持はないが、発達検査の結果から合理的配慮が必要な学生に対する授業形態の見直しとその振り返りを目的としたものなどが挙げられる。

学生相談室や健康サポート室に学生が勉強、休憩、食事などができるよう、カウンターテーブルなどを増設しスペースを設置した。そのため、頻回に来室する学生も増えた。一方、深刻な相談や発達の検査を行うスペースがなくなったので、隣接する使用していない部屋を整備し、間にドアを設置して活用できるような工事を実施した。

また、アルバイトが負担となっている学生が多いことがわかったので、アルバイトと健康状態についての調査を実施した。その結果、多くの学生がアルバイトに従事しており、様々なトラブルを多くの学生が経験していた。アルバイトをする限り何らかのトラブルに遭遇する可能性が高いということがわかった。そのため、身体的、あるいは精神的にストレスがかかっていたり、睡眠不足となるなど健康上の問題があったが、経済的理由で辞めることができないとする学生が多いことが示された。大学のみでアルバイト上の健康被害対策は十分にはできないが、学生部／委員会とも協議して大学としてできる対策を検討する必要がある。この調査結果は紀要に論文として掲載となる予定である。

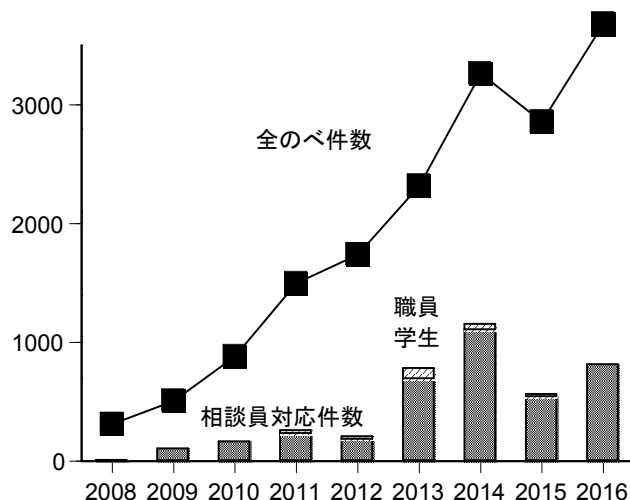
◆2016年度からは相談員が常勤となったため、学生相談や支援の質・量とも大きく充実してきている。新たに設置した部屋も有効に活用して、今後増加すると予想される、軽度の発達の偏りがある学生の不適応に対応していく必要がある。

また、学生支援という観点から、年度末に規程を改正し、専任教員の中から副センター長を置き、支援会議開催や学科など関連機関との調整を担っていただくことにした。

Ⅲ. 体に関する相談や応急処置

●平日9：00～17：00には看護師が常駐し、生理痛・頭痛・腹痛等の体調不良、軽い擦り傷・切り傷、軽い捻挫、湿疹などに対応した。ベッドでの休憩が必要な際には恵陵館健康サポート室、本館休養室のベッドを使用した。擦り傷などには積極的に湿潤療法での治療を試みた。体調不良で動くことも困難な学生が無理をして健康サポート室まで来ることがないように、内線で看護師を呼べば迎えに行くため、学内の電話には健康サポート室の内線番号を貼っている。

図1. のべ相談件数の推移



◆体に関する相談や応急処置の件数は、心や人間関係の相談に比べると年毎の増加率は少ないが、医薬品には使用期限があり、医療器具、消耗品類の必要数や種類について今後もしていく。本館休養室には現在2台のベッドがあるが、2台とも活用する場合はほとんどないので、ベッドで休むほどではないが休憩を望む学生が気楽に来られるよう、ソファを入れるなどの工夫を考えていく。

IV. 学生の健康診断

●健康診断は学校保健安全法に従い、全学生を対象にして、北海道結核予防会札幌複十字検診センターに委託して行った。身長、体重、自動血圧計による血圧、内科検診は全員、胸部レントゲン検査は1年次と卒業年次の学生を対象に実施した。内科検診で精密検査となった学生もいたが、精密検査で異常であったものはいなかった。血圧が高かった者は、健康サポート室で再検したが、多くは再検では正常であった。肥満傾向、やせすぎ、再検にても血圧が高い学生については、看護師の助言、昼休みのラジオ体操、定期的な計測で経過を見ている。BMIが正常内でももっと痩せたいと希望する学生には、健康的に体重管理ができるよう対応している。

保健福祉センターは診療所であり、視力計やオージオメーターがあるので、健康診断書を発行できる体制は整備できている。ただし、血液検査はできないので、その際には市内医療機関の受診を勧めている。看護師・保健師免許申請の際に保健所に提出する健康診断書の発行要請についてはほとんどの学生の希望があり対応した。また、就職試験や実習などで健康診断書が必要な場合も対応している。

◆健康診断後の体重管理については効果がある場合と、そうではない場合があった。効果的な方法について検討したい。

V. 健康教育

●救急救命講座

パーソナルトレーニングキット（ミニアン）を利用した学内での救急救命講座を実施した。学生に対しては必修科目の一部を活用し、1年生には全学科で実施できた。教職員には学生の講座に参加してもらった。3名の参加があった。

昨年度に引き続き、胸部圧迫のみのトレーニングキット（あっぱ君）を用い、市民を対象に実施した。2016年度はピヤシリ大学受講者24名と、名寄高校1年生全員135名を対象に講座を開催した。

◆本学の3つの建物全てにはAEDが整備され、収納ボックスも目立つように整備されている。来年度以降も学内の全学生と全教職員がいざというときに対応できるよう、パーソナルトレーニングキットを利用した救急救命講座を実施していきたい。市役所の市民出前講座に加えてもらっているので、働き盛りの年齢層への普及にも努めたい。

●学サポだより

2016年度は4号まで発行した。1、2号は年度当初のお知らせで、3号以降には禁煙のお勧め、メンタルヘルス対策、予防接種・感染症対策などの記事とした。発行回数は減少傾向にある。

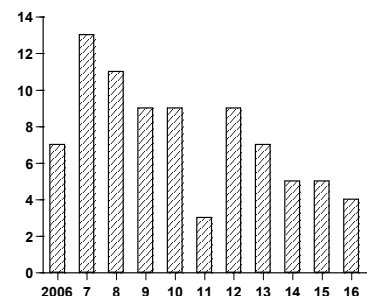
◆たよりの発行回数が減少傾向であるので、今後、運営委員の先生方にも記事を依頼するなど工夫したい。

●自己健康管理（セルフメディケーション）についての啓発

2009年度、インフルエンザの大きな流行があった際に、学生の中に体温計を所持していない学生がいることが判明した。体温計などの簡単な医療器具、医薬品、消耗品類をどの程度準備しているかの調査も行い、その結果に基づいて、自らの健康管理のためにどのような医療器具や医薬品が必要かを、具体的な商品名まであげた注意文書を、入学予定者の保護者あてに入学関連書類とあわせて送付している。2011年度には自己健康管理（セルフメディケーション）についての調査を実施し、注意文書が役立つとの調査結果を得たので、2012年度以降の入学予定者にも同様の注意文書を送付している。今年度は保護者へのお知らせについて見直しを行った。

また、2013年度から調査事業として、学生の出生時の状況を調査し、健康診断結果や発達障害傾向との関

図2. たよりの発行回数



連を見ることにした。その中で保護者への質問票に、入学生の心身のことで保護者が気になることを記載してもらう欄を設けた。

◆今後とも同様の注意文書を送付する。調査事業は2017年度で終了し、結果をまとめたい。

VI. 感染症予防対策

●北海道結核予防会札幌複十字検診センターに委託して、全ての新生入生に、罹患歴にかかわらず麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の抗体検査、IGRA検査と胸部レントゲン検査、看護学科新生入生全員にはC型肝炎の抗体検査を実施した。また、3、4年生にも麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の抗体検査を実施した。抗体価が低い者には医療機関への紹介状を発行し予防接種を受けるよう勧奨した。判定基準は、日本環境感染学会が2014年に公表した「院内感染対策としてのワクチンガイドライン：第2版」に従っている。実際に受けたかどうかの調査をするため、予防接種を受けた医療機関でサインをしてもらうように、学生に接種証明用の確認書用紙を配布した。接種証明用の確認書用紙が提出されたものには、後援会から支援金を支給している。新任教職員の中に若い職員がいる場合には罹患歴、ワクチン歴調査を実施し、抗体検査を勧めた。

インフルエンザ、流行性耳下腺炎、感染性胃腸炎（ノロウイルス）などの第二、三種感染症は例年のように散発したが、学校保健安全法に従い大学に届け指示を仰ぐよう啓発した。

◆今後も、1年生全員の上記の抗体検査を実施する。学外実習の多くが、3年生で実施されるようになったので、確認検査については3年生全員を対象に麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の抗体検査を実施し、予防接種の結果を確認するほか、受けていない学生については接種の再勧奨をする。4年生の検査は実施しないことにする。

VII. イベントなどへの対応

●宿泊オリエンテーションへの対応

社会保育学科が西興部村・ホテル森夢で開催する1泊の宿泊オリエンテーションに健康管理ということで参加した。事前にアンケートを実施し、既往歴や集団生活で困ることなどを調査した上で、センター長が随行した。大きな事故はなかった。看護学科の宿泊オリエンテーションでも、社会保育学科と同様の調査を実施し、看護学科の教員に情報提供した。

◆宿泊オリエンテーションを実施する社会保育学科と、看護学科には、今後とも同様の対応をして、安全を期したい。

●大学祭への対応

大学祭の時の健康管理や事故対応については、これまでと同様に看護学科の先生方をお願いし救護班を組織した。対応した事例は表2のとおり、延べ7名、実7名でありいずれも軽症であった。大学祭とは関係がない外傷もあった。看護学科救護班の先生方には、健康サポート室に出向いていただき、あるいは連絡や引継ぎを丁寧にしていただいたので、対応がスムーズであった。

表2. 大学祭での対応

	日程	学生／学外者	疾病等	対応
1	7/15	2K 学生	テント設置時に外傷	保湿用絆創膏貼付
2	7/18	2S 学生	テント設置時に外傷	保湿用絆創膏貼付
3	7/19	2J 学生	靴擦れ	保湿用絆創膏貼付
4	7/19	3K 学生	とげが刺さった	ピンセットで除去
5	7/19	4E 学生	自宅でガラスで切創	洗浄し絆創膏貼付
6	7/19	4K 学生	粉瘤切除後の絆創膏のはがれ	傷を確認し絆創膏貼付
7	7/19	4S 学生	爪切り希望	爪切りを渡す

◆2017年度も同様の対応をする。

●入試への対応

入試に当たっては、事務局より、受験生の救護の依頼を受けた。前期は3会場、後期は札幌2会場であったので、看護師だけでは対応できず、看護学科の先生に依頼してもらった。対応が必要な受験生はいなかった。

◆今後も依頼があれば、同様の対応をする。

●卒業式への対応

卒業式では毎年のように式典の最中に体調不良を訴える学生が出るので、車椅子を用意して看護師が式に立ち会った。

◆今後は入学式、卒業式でも、同様の対応をする。

VIII. 学内の安全対策、健康管理

●体重管理

健康診断で BMI が 18.5 未満、あるいは 25 以上の学生を体重管理の対象とした。

表 3. 体重管理の状況

	低体重	過体重	肥満
BMI	18.5 未満	25 以上 30 未満	30 以上
対象者	91	67	11
健康サポート室で支援	10	9	1
	低体重者、過体重者ともに呼び出して 1 回のみか、2 回のみ来室で、継続支援ができなかった。 通年で来室していた者は 3 名だが、体重よりもメンタル面の支援が優先された。		

BMI が正常範囲でも健康的なダイエットを希望し、来室していた学生が多数おり、年間体重管理者数は延べ 451 名であった。

◆2017 年度にも継続したいが、体重管理のためには、モチベーションの維持が課題である。

●料理教室

4 月 20、27 日に、新入生で初めての一人暮らし、初めての自炊をしている学生を対象に「チョコかんたん、お料理教室」を開催した。13 名の参加者と共に包丁も火も使わない、レンジ料理を 4 品作り、試食した。簡単でおいしいと好評であった。

◆2017 年度にも継続したい。

●学内禁煙

本学は敷地を含み学内禁煙であることから、公衆衛生学の講義の一コマで担当教員により喫煙対策を周知する健康教育を実施してもらった。健康サポート室では、喫煙者で禁煙を希望する場合は、市内医療機関の禁煙外来への紹介状を書くといったサポートをすることを周知したが、相談者は少なく、いずれも禁煙には至っていない。

◆ガイダンスでの健康教育では十分な時間が取れないので、今後も必修科目のコマを利用して健康教育と調査を実施する。喫煙者で禁煙を希望する場合は、市内禁煙外来への紹介状を書くといったサポートを何度も周知する。

●アルコール対策

毎年のように各地の大学でアルコール一気飲みの事故が起こっている。本学の学生の中に急性アルコール中毒で時間外外来を受診したものがいる。新入生のガイダンスで、アルコールパッチテストを実施し、その機会にアルコールに対する適切な対応について健康教育をする機会を設けた。

◆2017 年度にも新入生のガイダンスで、アルコールパッチテストを実施し、その機会にアルコールに対する適切な対応について健康教育をする機会を設ける。

●教室の照度検査

◆欠灯など問題がある点は毎年事務局に報告している。定期的な照度検査は継続する。

IX. ホームページ、年報

●年報 9 号を発行し、大学のホームページに掲載し、本学の教職員、全国保健管理協会北海道地方会に加盟している道内の大学、短期大学、高等専門学校に連絡した。

◆来年度も引き続き、ホームページの更新と充実に努める。年報はホームページ上に公表する。

X. 医療安全対策

●医療安全管理指針、学内感染対策指針、医薬品の安全使用のための業務手順書、医療機器の安全使用と保守点検のための業務手順書を定めホームページ上に公表している。医療安全管理者にセンター長、医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者に看護師を指名している。今年度、問題になるような事故はなかった。

◆2017年度も台帳の管理を確実にするなど、安全対策が確実に実施されるように努める。

XI. 学会、研究集会活動

●第54回全国大学保健管理協会北海道地方部会研究集会（8月：札幌）にセンター長、看護師、相談員が、第54回全国大学保健管理研究集会（10月：大阪）にセンター長が参加した。それぞれ「学生のアルバイト職場における労働安全衛生：発表者 大見」、「新入生の健康感・満足度調査と卒業までの退学・休学・留年：発表者 大見」という演題で発表を行った。これらの演題は論文として「学生のアルバイト職場における労働安全衛生：名寄市立大学紀要」、「新入生の健康感・満足度調査と卒業までの退学・休学・留年：CAMPUS HEALTH」へ掲載予定である。

◆2017年度には第55回全国大学保健管理協会北海道地方部会研究集会：北見に参加して、調査結果を公表し、他大学保健管理部門との交流と研修を図る予定である。